

◆ 世界における海賊等事案の動向

国際商業会議所の国際海事局（IMB）が1月22日に発表した年次報告（速報値）によれば、2006年に世界で発生した海賊等事案の件数は239件（2005年276件）で、2004年から3年連続で減少し、1999年以降では最低でした。

海域別の件数としては、インドネシア50件（同79件）に、バングラディシュ47件（同21件）が続いていて、この2つだけで世界全体の4割を占めています。バングラディシュの事案のうち、46件がチッタゴンの周辺海域で発生しています。このほか、マラッカ・シンガポール海峡16件（同19件）、ナイジェリア12件（同16件）、ソマリア10件（同35件）、マレーシア10件（同3件）、紅海・アデン湾10件（同10件）となっています。

また、発生件数の傾向としては、インドネシア50件（同79件）、ソマリア10件（同35件）、インド5件（同15件）、ベトナム3件（同10件）、イラク2件（同10件）は大きく減少しましたが、バングラディシュ47件（同21件）とマレーシア10件（同3件）は昨年の2倍以上に急増しています。

人的被害としては、殺害されたり行方不明になっている乗組員の数が15名（同0名）／3名（同12名）のほか、負傷した者の数は15名（同24名）、誘拐された者の数は77名（同13名）、人質にされた者の数は188名（同440名）となっており、身代金目的のほか金品を強奪する事案が多く発生しています。

注）国際海事局（IMB）は、国際貿易等に関する取引慣習の統一化等を行う民間団体である国際商業会議所（ICC）の専門部局であり、海賊など海事関係の犯罪に対する防止対策等について、独自に情報を収集し、その分析等を通じて、広く海事関係者に助言を行っている機関です。